

## 「わたし」から始まる社会学

京都大学が東京・品川の「京大東京オフィス」で開く連続講座「東京で学ぶ 京大の知」(朝日新聞社後援)。女性研究者に焦点をあてるシリーズ4「女性として、研究リーダーとして」の2回目が7月30日にあり、京都大学文学研究科の落合恵美子教授が「『わたし』から始まる社会学」と題して講演した。出産、子育てといった私生活での体験を通じて深めていった、家族やジェンダーに関する研究について紹介した。



講演する落合恵美子教授。実体験を踏まえた話に聴講者も聴き入った

### ●個人的なことは社会的なこと

「『パーソナル・イズ・ポリティカル』。聞いたことがある方はいますか」

講演の冒頭、落合教授はこう問いかけた。1960年代のフェミニズム運動で盛んに言われた言葉だ。「すごく個人的、私事に見えることに社会全体の力関係や社会の制度が集約されて表れていること」を意味するという。

しかし、会場の反応は鈍い。「この運動は、『ウーマンリブ』とも言われた運動です。これは聞いたことがあるでしょうか」。そう投げかけると、今度は多くの手が挙がった。

「マスコミで揶揄されたりしたのでおもしろいイメージを持つ方もいらっしゃると思うが、かなりいいことを言っている。私は『個人的なことは社会的なこと』と読み替えて、社会学をやってきました」。聴講者にうなずきが広がる。

この言葉通り、落合教授の研究の傍らには私生活があった。

落合教授は1958年、東京都生まれ。東京大学に入学し就職活動を控えたころ、同じクラスの男子学生に送られてくる分厚い就職資料が、自分には届かないことに愕然とした。

「このことをゆっくり考えてみたい」と、東大大学院に進学。修士課程2年のときに、交際相手の京都での就職が決まった。「女性であることを研究しているのだから、結婚も研究もしたい」。そう考えて結婚して京都へ移り住んだ。そして、京都から東京まで通う生活が始まった。さらに、出産についての修士論文を執筆中に、自分自身の妊娠が分かった。

## ●出産も研究にプラスした

激動の20代。研究を続けることが大変だったのではと思われがちだが、落合教授は「論文を書きながら唯一困ったのは、おなかが大きくなってだんだんデスクが遠くなったこと」と話し、会場の笑いを誘った。そして「出産するといろんな経験をするので今まで見えなかったものが見えてくる。女であることも出産することもプラスだと思っています」と強調した。

子育ての経験も研究に生きた。娘が2歳のとき、同じ2歳児を持つ母親の育児を研究。一般的な人間関係と逆に、子育てをめぐる付き合いは、都市部のほうが郡部より盛んであることを発見した。核家族が多いためだった。「助けてくれる親、きょうだい、親族が近くにいない。それでネットワークを広げる。私の経験ともピッタリ合いました」

落合教授が子育てをした80年代は、育児ノイローゼが話題となり、「親がダメになった」と言われた。落合教授は歴史的变化をたどり、80年代の子育てには、60年代に大きな支えになっていたきょうだいの助け合いがなくなっていたことを突き止めた。「『子どもをうまく育てられない』とよく言われたが、気力が足りなかったのではなくて、助け合う人がいなかったから。だから近所づきあいをしたんです」



主婦雑誌の表紙を題材に「主婦」が登場した経緯について説明する

## ●女性＝母性は近代の発想

落合教授は母親が子育てを一手に引き受けるような家族のあり方にも、考察を加えた。「私たちは、女性という母であることが一番大切な役割なんじゃないかと思い、仕事との両立で悩んだりします。しかし、この考え方は意外と特殊です。母性が女性の第一の役割だとする規範や、専業主婦の母親がありうるという発想は、近代になってから生まれたものなのです」

落合教授によると、日本で「主婦」が誕生したのは大正時代のこと。戦後10年が過ぎたころから定着した。欧米では70年代ごろから女性も男性と同じように一生働き続けるのが普通になったが、日本では、好調だった経済を背景に主婦優遇税制などの制度ができ、主婦が残ったという。経済的な豊かさがあったのはじめて、主婦というポジションが成立するのである。

アジア各国の子育てネットワークは日本とは違う。中国では、祖父母が孫の世話をするのが当たり前で、父親のかかわりも大きい。また施設での保育が充実しているのも特徴だ。シンガポールや台湾では、外国人のメイドが大きな役割を担っている。

ではこの先、日本はどんな対策をとるべきなのか。

落合教授はこう指摘した。「母親ひとりではなく、ネットワークの中で子育てできる社会がいい。子どもが遊ぶ機会も大事です。日本では、保育園は両親が共働きでないと利用しにくい。でも、希望者は全入できるぐらい、保育園の充実に政府は力を入れるべきでしょう。」



会場には多くの女性が詰めかけた。子育ての不安を訴える女性に落合教授がアドバイスを送る場面もあった

(※原稿及びクレジット未記載の写真は朝日新聞社提供)